

株式会社アイカムス・ラボ

地域の知恵と技術をフル活用

会社概要

事業概要：プラスチック歯車減速機を用いたマイクロアクチュエータとその応用製品の開発・製造・販売

所在地：岩手県盛岡市上田四丁目3-5

URL：http://www.icomes.co.jp

設立：平成15年5月

資本金：3,951万円

年商：1億5,000万円

従業員：18名

社長プロフィール

代表者：片野 圭二

年齢：47歳

職歴：大手電気メーカー

座右の銘：日本と地域と個人の自立



製品・サービスの特徴

世界最小のプラスチック歯車減速機（φ4mm×L3mm）とステッピングモーターを連結したマイクロアクチュエータは、プラスチックの特性を生かし部品点数を大幅に削減することで、小型・軽量・低価格を実現。計測器分野や理化学・医療機器分野のほか、介護・福祉ロボット分野においても活用されるなど今後も利用拡大が見込まれている。



マッチ棒の先ほどのサイズの、小型・軽量マイクロアクチュエータ

自らの力で事業化にチャレンジ

代表取締役片野氏は大学卒業後、アルプス電気盛岡事業部（プリンタの開発・生産拠点）において、プリンタの機構系の設計・開発を担当していた。そうした中、経済のグローバル化が加速し、世界規模での生産拠点の再編が起り、アルプス電気においてもプリンタの開発・生産拠点であった盛岡事業部を閉鎖。中国へ工場を移管することになったのである。入社して18年後のことであった。

このように在籍事業部が閉鎖されるなど環境が大きく変化する中、「環境を変えて何か新しいことにチャレンジしたい」との考えに加えて、開発に取り組んでいたが事業化に至らなかった「超小型プリンタの事業化を実現したい」との思いから起業を決断。事業部閉

鎖に伴う退職であったため、退職金が割り増しで支給されることも起業を後押しすることになった。

退職後、片野氏は会社をただちに設立するのではなく、財団法人いわて産業振興センターに研究員として勤務することを選択。経済産業省の平成14年度「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択され、超小型プリンタの基幹技術である「小型IT機器用減速装置の開発」をテーマとして研究に取り組んだ。研究開始から1年が過ぎた頃、研究事業の途中ではあったが、技術基盤が確立されるなど事業化の目途が立ったため、ようやく起業に踏み出すことになった。

小型機構技術へ特化

会社設立後、Yシャツの胸ポケットに入れることができる厚さ12mmの世界最薄サイズの超小型プリンタ

「プリンパクト」の開発に成功する。テレビ、雑誌の取材が殺到するなど注目を集めることになった。試作品を製造し販路開拓を行うことになったものの、販売網の拡大に苦戦するなどコンシューマー製品のマーケティングの壁に直面し量産化をあえなく断念。超小型プリンタの開発時に培った小型機構技術を生かし、プラスチック歯車減速機を用いたマイクロアクチュエータの開発に事業を特化することで、経営危機の克服に挑むことになった。

情報機器や医療機器の小型化が進み、部品の小型・軽量化が求められる状況の下、世界最小のプラスチック歯車減速機（φ4mm×L3mm）に成功する。金属の切削加工の限界を打ち破ることで、これまで金属では不可能であった小型化を実現。部品点数を大幅に削減することで、小型・軽量・低価格を可能とした。こうした同社の戦略が小型・軽量化ニーズを捉えることで、経営危機を乗り越え、現在では計測器分野のほか、医療用の小型分注機、マイクロピペットやマイクロTAS等の薬液搬送機構など幅広い分野で利用され、更なる成長を遂げている。

身近な経営資源の活用

技術：小型機構技術（マイクロアクチュエータ）
資金：自己資金、役員、元同僚、岩手県ファンド
支援機関：東北経済連合会、いわて産業振興センター、岩手大学地域連携推進センター

100%岩手県内産

大手企業の生産拠点の中国への移転が進んだこととともに、中国を中心とする海外の安価な製品の流入により、地域の中小製造業も日本の他地域と同様に衰退が進んでいる。このような状況のもと、片野氏は「日本の製造業は大企業と地域の中小企業の連携なしでは成り立たない」との持論から、生まれ育った地域の活性化を意識した行動を常に心がけている。

たとえば、「100%岩手県内産」にこだわった同社の製品づくりである。同社は、岩手県ファンドとともに岩手大学の教授や准教授が経営に参画している。このため大学との強力なネットワークを構築し、大学の技術と知を活かして共同研究を進めることで技術力の向上や新製品の開発に繋げているのである。

生産に関しても、地域を支える精密加工技術に長けた岩手県内の中小企業と連携を深めている。製品の付加価値を高めることで、取引先企業にも利益を還元で

きるように、高い収益性が望める理化学機器や計測器などの分野に製品のターゲットを絞っている。

片野氏は、このように製品の研究・開発から生産までを岩手県内で一貫して行うことで、岩手県内を中心に地域のものづくりに貢献することを使命と考えている。

雇用に関しても、Uターン就職を希望する地元出身者を積極的に採用するなど地域を意識した採用活動を進めている。地域雇用の創出だけではなく、地域貢献の意識を共有できる人材を育成することで地域の活性化を図りたいと考えている。このような思いが経営理念「日本と地域と個人の自立」という言葉に込められている。

今後の事業展開

同社の販売方法の特徴は、有力市場である東京での販路開拓に、個人を中心とした「セールスレップ（営業代行）」を活用していることである。東京進出時に東北経済連合会から紹介を受けてスタートしたが、現在では全体の3分の1はセールスレップを通じた売上である。こうした販売体制を活かすことで更なる事業の拡大を目指している同社。顧客ニーズを的確にとらえることで、今後は株式公開も視野に入れて、次なるステージでの飛躍が期待されている。

学ぶべきポイント

- ① 地元大学の研究開発力を有効活用
- ② 精密加工に長けた地域の中小企業との連携
- ③ マイクロ歯車によるマイクロアクチュエータの事業に特化
- ④ 付加価値が高い製品づくりを行い地域のものづくりに貢献

起業を志す方への アドバイス

情熱をもって仕事に取り組むこと。同時に自分の仕事に誠実であることが必要である